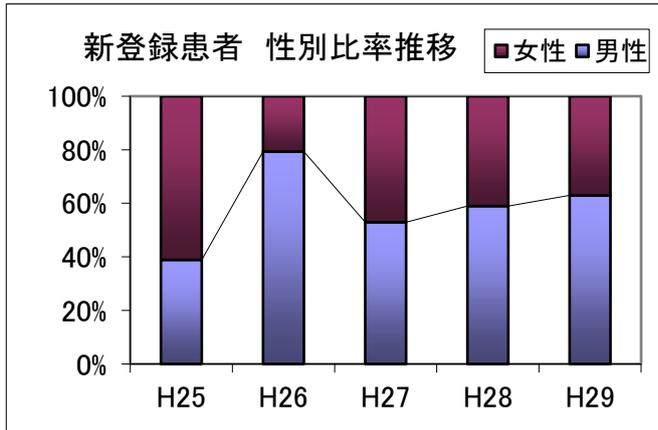


平成29年 結核登録者の状況

1 新登録患者数, 罹患率(表1)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
新登録結核患者数	36	29	34	39	27
罹患率(人口10万対)	10.3	8.3	9.8	11.4	7.9
菌喀痰塗沫陽性肺結核患者数	15	10	15	10	13
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	4.3	2.9	4.3	2.9	3.8
65歳以上の新登録患者数	28	25	29	32	21
新登録結核患者数に占める割合	77.8%	86.2%	85.3%	82.1%	77.8%
(別掲)潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	19	14	13	14	13

(図1)



(表1より)

平成29年新登録患者数は27人, 潜在性結核感染症患者数は13人であった。65歳以上の患者が77.8%を占めている。

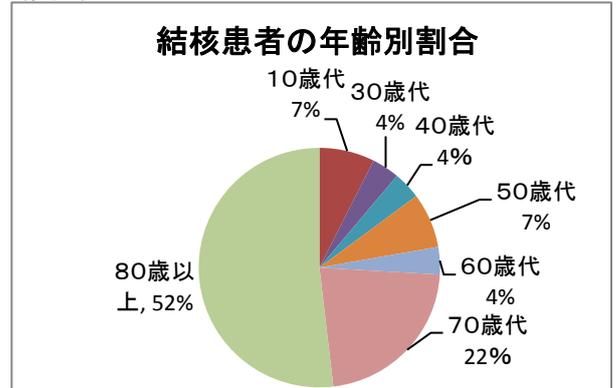
(図1より)

平成29年新登録患者性別比率は男性17人(63.0%), 女性10人(37.0%)と男性は女性の1.7倍 となっている

(表2) 年齢別 結核罹患率

年齢区分	患者数	罹患率
9歳以下	0	-
10歳代	2	7.1
20歳代	0	-
30歳代	1	2.7
40歳代	1	2.1
50歳代	2	4.8
60歳代	1	1.8
70歳代	6	13.4
80歳以上	14	41.6
計	27	7.9

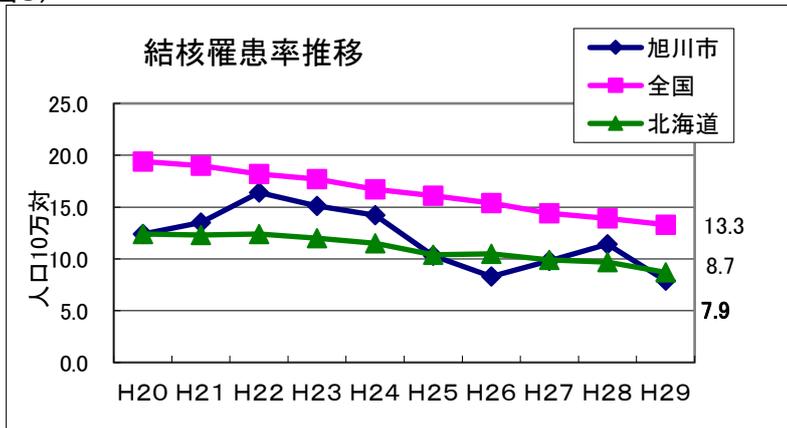
(図2)



(表2)(図2)より

新登録結核患者の年代別に見ると, 70歳代・80歳以上が全体のに占める割合は74%と高くなっている。同様に, 70歳代, 80歳以上については罹患率も高くなっている。

(図3)



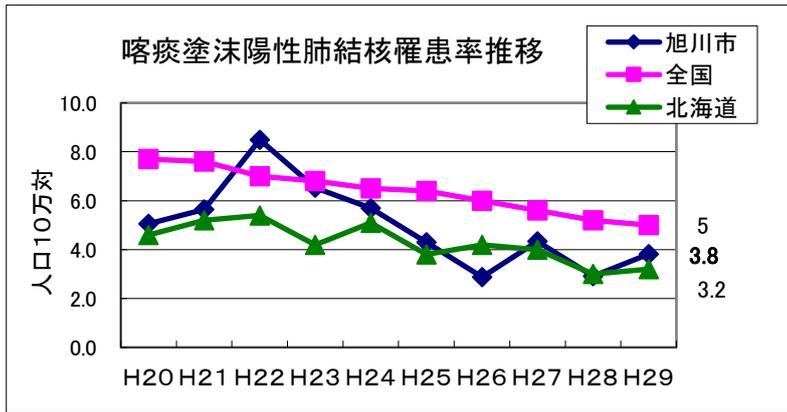
(図3より)

結核罹患率は平成22年以降年々減少し低まん延とされる結核罹患率10を平成26年から下回っており, 平成29年は7.9となっている。

全国, 北海道ともに年々減少しており, 比較すると, 全国, 北海道よりも低い罹患率となっている。

※札幌市 8.0

(図4)



(図4より)

平成29年喀痰塗沫陽性肺結核罹患率は3.8(人口10万対)で、前年2.9と比べると高くなっているが、経年的に見ると減少傾向である。

※喀痰塗沫陽性肺結核:患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人達への感染源となりやすい

2 結核登録者数, 有病率

(表3)

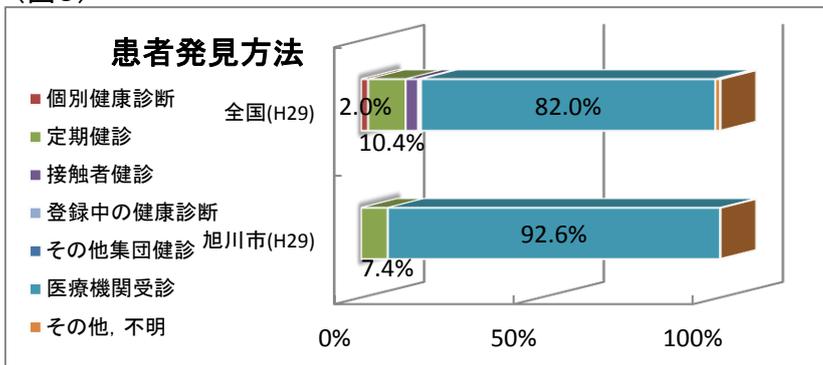
区分	H25	H26	H27	H28	H29
結核登録者数	106	85	78	75	78
活動性全結核患者数	27	17	30	24	20
有病率(人口10万対)	7.7	4.9	8.7	7.0	5.9
全国有病率(人口10万対)	11	10.6	9.9	9.2	8.8

(表3より)

平成29年末現在の結核登録数は78人であり、前年より3人増加した。うち、活動性全結核の患者数は20人であり、前年より4人減少している。結核有病率は、前年の7.0から1.1減少し、5.9となっている。

3 新登録患者結核病類

(図5)



(図5より)

新登録患者27人の発見方法は医療機関受診が25人(92.6%)と多く、定期健診は2人(7.4%)となっている。

全国より、医療機関受診による発見が多い傾向となっている。

表4 結核患者分類

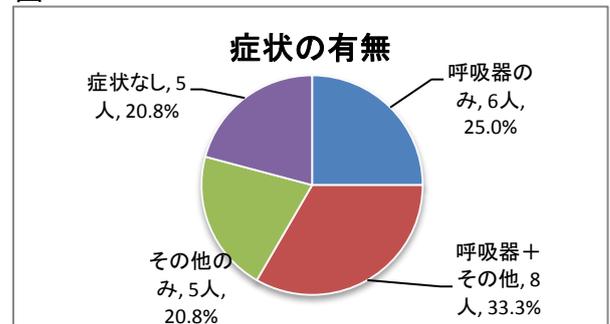
※複数診断あり

病名	人数	割合
肺結核	21	77.8%
結核性胸膜炎	4	14.8%
粟粒結核	1	3.7%
他のリンパ節結核	1	3.7%
腎・尿路結核	0	0.0%
皮膚結核	0	0.0%
結核性心膜炎	0	0.0%
その他の臓器結核	0	0.0%
合計(延)	27	100.0%

(表4より)

新登録患者27人の内訳は、肺結核21人(77.8%)、肺外結核では、結核性胸膜炎4人(14.8%)、粟粒結核(肺結核併発)とリンパ節結核がそれぞれ1人となっている。

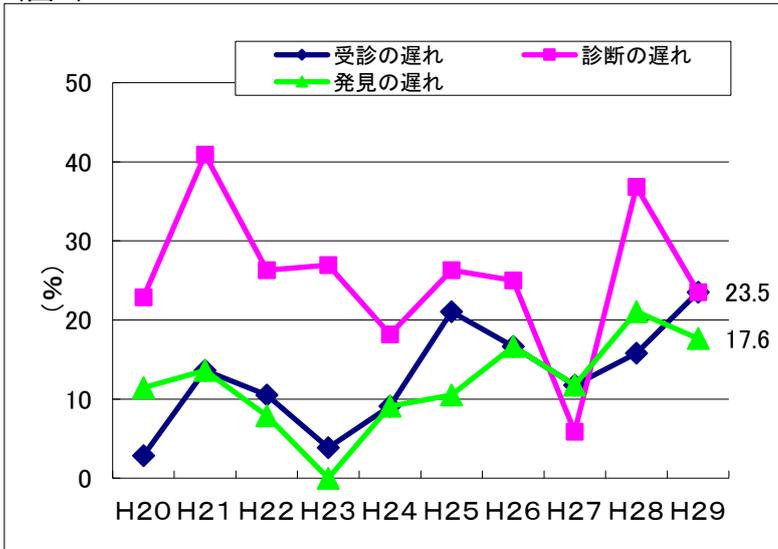
図6



(図6より)

肺結核患者21人(粟粒結核を併発している1人については肺外結核)のうち19人は有症状であり、呼吸器症状があったのは14人(58.3%)となっている。

4 新登録有症状肺結核患者の発見の遅れ
(図7)

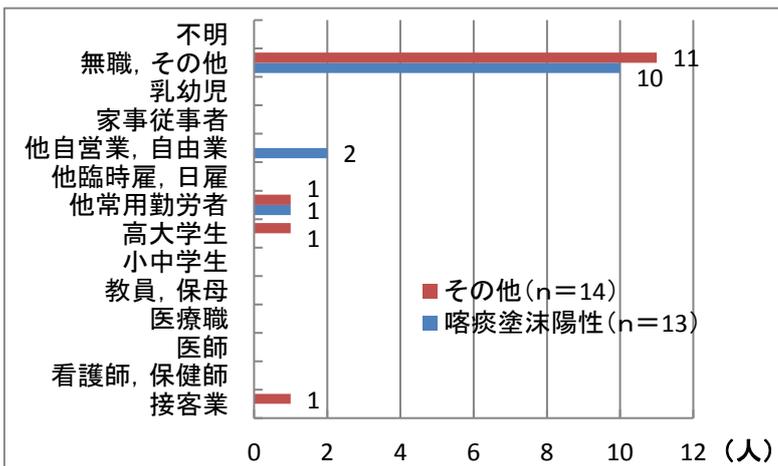


(図7より)

平成29年新登録有症状肺結核患者17人のうち、発病から初診までの期間が2か月以上(受診の遅れ)の者は4人(23.5%), 初診から診断までの期が1か月以上(診断の遅れ)の者は4人(23.5%), 発病から診断までの期間が3か月以上(発見の遅れ)の者は3人(17.6%)となっている。

全国との比較では、発見の遅れについては、全国よりも低く、受診の遅れ、診断の遅れについては全国よりも高い割合となっている。

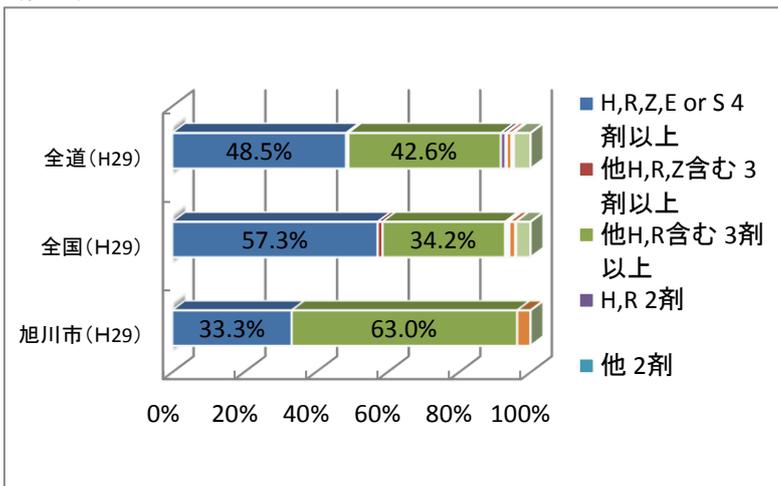
5 新登録肺結核患者 登録時職業
(図8)



(図8より)

新登録肺結核患者27人の登録時職業は高齢者が多いため無職が21人(77.8%)と多い。

6 新登録患者化療内容
(図9)



(図9より)

新登録患者27人の化療内容はH,R,Z,E or S4剤以上使用していた者が9人(33.3%)と昨年23.1%から増加, 他H,R含む3剤以上使用していた者が17人(63.0%)と最も多い。

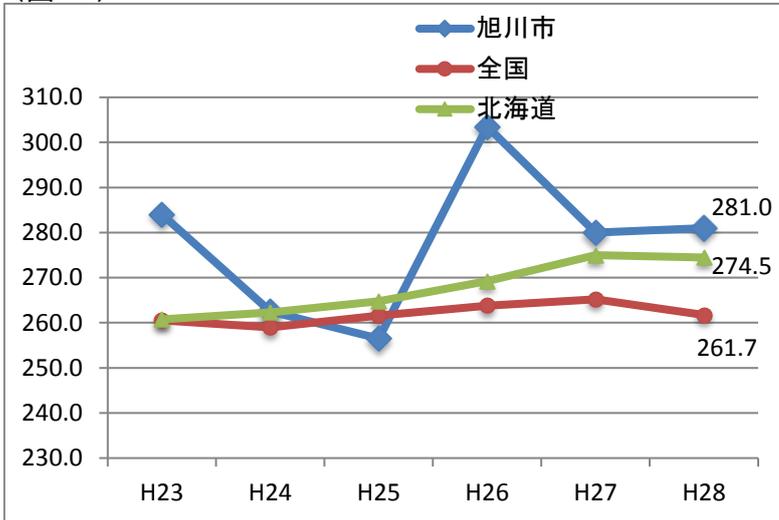
これは患者が80才以上の割合が高く, PZAを使用できなかったことによると考えられる。

尚, 9割以上が標準治療となっている。

7 薬剤感受性試験結果

新登録菌培養陽性肺結核患者は19人のうち16人が薬剤感受性検査を実施しており、1人がINH耐性、2人がSM耐性が判明している。薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は81.3%となっている。

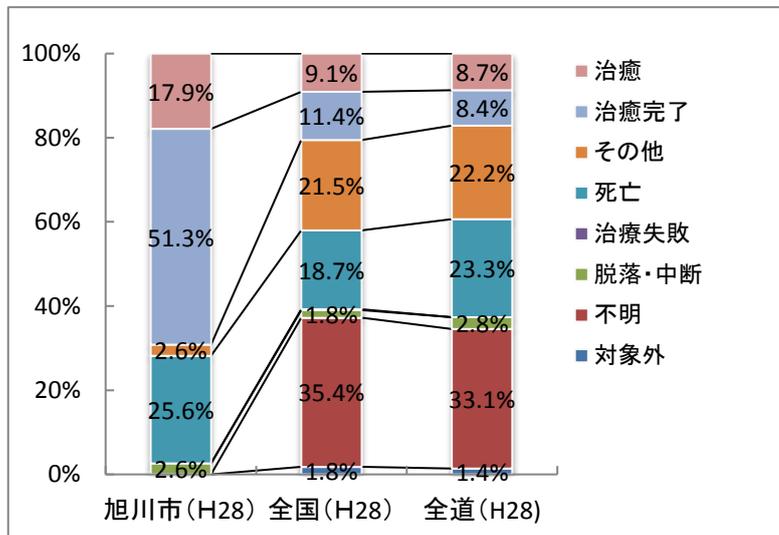
8 平成28年全結核治療完遂継続者治療期間中央値 (図10)



(図10より)

平成28年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は281日と、前年とほぼ同様、全国・全道と比較するとわずかに長かった。要因として、高齢者の患者が多く副作用等により減感作療法を実施した結果、治療期間が長引く結果となったことが考えられる。

9 平成28年新登録活動性結核患者 コホート観察 (図11)



(図11より)

平成28年新登録活動性結核患者39人のコホート観察では治癒は7人(17.9%)、治療完了が20人(51.3%)で、治療成功率は69.2%であった。

また、死亡が10人(25.6%)のほか、転出が1人、医師の指示による治療中断が1人だった。治療失敗はおらず、特定感染症予防指針の目標値である5%以下を満たしていた。